



西村クリニック便り 第70号

発行元

西村クリニック

四條畷市楠公 1-14-6

072-862-3001

インフルエンザ予防接種のご予約を承っております

お1人様1回 3800円(税込み)です

代金と保険証をご持参いただき受付までお申し込みください

マスクをしましょう

いよいよ秋本番です。この季節味覚の秋と言って色んな食材が美味しい季節でもあります。最近では地球環境の変化もあっていつも食卓に上がっているものがお目にかからないという光景も時には見受けられます。

今年は昨年が続いてサンマが不徳だそうで、毎年この季節に舌鼓を打って食べるサンマも今年は高級魚となり口に入りにくくなってしまいました。そう言えばマツタケも私の子供の頃はそんな高級食材でもなく時々食べていた様に思われますが、今では滅多に口にする事も無くなっておりまして。昔はマツタケ狩りというものもあつた様ですが、マツタケに限らずキノコ狩りをする人も今は随分と減つた様です。



もう大分前の話ですが、私が大病院の救命救急センターで勤務していた頃、キノコ狩りをして誤って毒キノコをすき焼きにして食べてしまい、中毒を起こした患者さんが運ばれてきました。よく調べてみるとシロタマゴテングタケというキノコを食べたみたいです。

このシロタマゴテングタケにはアマニタトキシシンという猛毒が含まれており、全身、特に肝臓に悪さをするみたいで、この患者も劇症肝炎になり肝臓の数値が見た事もない位上昇しており、危険な状態でした。この患者は救命救急センターのICUで血漿交換と言って血液の一部を交換する治療を行い何とか救命できましたが、この時から私の脳裏に野生のキノコは危ないという考えが焼き付いて離れなくなつたのは事実です。

さて秋も深まり外へ出かけるには持つてこいの季節となつてきました。先日朝から緑地公園をジョギング中、ふと目に止まつたのが本立の中でニョキッと顔を出している白いタマゴ型をした、マッシュルームの様な可愛いキノコでした。それを見てひよつとしたらあれはシロタマゴテングタケではなからうかと昔の大病院の毒キノコの一件が記憶に蘇りました。そして二、三日後あのキノコはどうなつたのだろうかとその場所を通りましたが、その白いキノコの姿は見つけられませんでした。まさかそんな事はないだろうと思いがちでも、ひよつとして誰かが採取して持ち帰って食べたのでは・・・という妄想にかられながら帰宅したのであります。

院長 西村 章

皆様は Bluetooth なるものをご存じですか？ご存じですよ。私達は最近この Bluetooth を始めました。なんと設定するとどんな音楽も家でも車でも外出先でも聴けます。9月の連休にも京都にドライブに出向き懐かしい曲を聴きながらとても楽しい時間を過ごしました。院長は幅広い曲を聴きますので前奏で曲目を当てます(*^▽^*)音楽をじっくり聴くことも少なくなった今日この頃。そんな秋の夜長もいいものかと思いました。

先日より親子猫の保護に取り組んでいました。その母猫を仔猫の時から見ていましたが或る日ふと見ると仔猫二匹を連れて私の目の前に座っていました。母猫はあばら骨が出るほどやせ細りついていくとある場所へつきどうもそこに住んでるようでした。色んな方面の方々にご指導を仰ぎながら保護活動をされている方々にお力添えいただきだき今手術のため入院中です。今回の保護でも思ったことはTNRの問題点です。糞尿の被害のある方には理解されにくくTNRされた猫の餌やりボランティアさんを確保ができていないことです。「誰かが餌をあげてくれる」前提で進んでいいのでしょうか。糞の片づけを含め猫が食事をしたあとの掃除もしていくことの徹底も大切ではないでしょうか。仔猫が産まれてしまったときの仔猫や大人猫の預かりボランティアさんも不足しています。預かっても里親がつかずパンクしてしまいます。また資金面でも持ち出しが多くなってしまつとせつかくの思いも中断させざるを得ません。日本はまだ地域猫(さくら猫)の概念も浸透していません。熱い思いを持って活動されている方々とともに小さい声ではありますがこれからも声を上げていきたいと思つています。お外の猫の寿命は3~5年と言われていると聞きます。残りの猫生を穏やかに健康に暮らせることを祈りペットを迎えるときは是非譲渡会から迎えることを検討していただくと幸いです。

編集後記

**猫のトイレをお外に設置しました
毎朝トイレを使用した形跡があります
トイレがないから困ってあちこちで
してしまうとも考えられませんか？**